

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1990100446		
法人名	株式会社やさしい手甲府		
事業所名	やさしい手グループホームこうふ西		
所在地	山梨県甲府市上石田1-8-23		
自己評価作成日	平成27年9月22日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成27年10月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所して1年6ヶ月経ちましたが、当事業所の企業理念でもある『心をつむぐ絆』の言葉を大切に日々、ご利用者、ご家族、また地域の方々との交流が密にできるように努力しております。月に一度は大きなイベントを企画して御利用者、ご家族も巻き込んで楽しんで頂ける活動や流しそうめんなどで地域の方にも参加して頂きました。グループホームに関心を持ってもらい、色々な方が気軽に出入りできるオープンなグループホームとなる様に力を注いでおります。運営推進会議ではできる限りご家族や地域の方々の意見をお聞きして課題を改善しております。県外のご家族もおられますので、毎月お便りを作成してご利用者の笑顔の活動写真を見て安心して頂くようにしております。まだ満足のいくサービスには遠いと思いますが、ご利用者の笑顔は確実に増えていると思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は甲府の市街地にあり、敷地内には同一法人が運営するデイサービス、訪問介護、小規模多機能型居宅介護などの事業所が隣接している。グループホームは三階建て1階、2階に各ユニットが3階には多目的ホールや会議室などがあり、ホームの行事や地域行事にも活用している。開所して2年目となるが利用者が地域とのつながりながら暮らせるよう事業所は積極的に取り組んでいる。職員は利用者・家族との信頼関係を築くため、一人ひとりの思いをしっかりと捉えてサービスの質・職員の質の向上を目指している。利用者一人ひとりの思いを理解し大切にする職員のもと利用者は明るいリビングで思い思いの席に座り会話を楽しみ日々の生活を過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名 (やさしい手グループホームこうふ西)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		実践状況	外部評価
			ユニット名(1F)	ユニット名(2F)		
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念「心をつむぐ絆」をモットーにご利用者、ご家族、地域の方々と心を通わせ共に創るその人らしい生活を支援できるよう社員の入社時やミーティング等で理念を共有して実践できるように伝えている。	事業所の理念「心をつむぐ絆」をモットーにご利用者、ご家族、地域の方々と心を通わせ共に創るその人らしい生活を支援できるよう社員の入社時やミーティング等で理念を共有して実践できるように伝えている。	事業所独自の理念「心をつむぐ絆」を作り、朝礼やミーティング等で確認し全職員で共有している。職員と利用者・家族の関係だけでなく地域とのふれあい、関係づくりも目指している。新採用職員にも意識づけしていくために日々の中で、繰り返し話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	運営推進会議時に地域の方々にはグループホームの内容や課題などを一緒に考えて頂く機会を設け、お便りなどの毎月の活動に関心を持ってもらうようにしている。	運営推進会議時に地域の方々にはグループホームの内容や課題などを一緒に考えて頂く機会を設け、お便りなどの毎月の活動に関心を持ってもらうようにしている。	事業所の1周年記念の行事を地域に呼び掛けたり、地域の活動「歌声の会」に会場を提供し、終了後に交流の機会を作ったりするなど地域に開かれた存在であることを大切に様々、取り組んでいる。自治会へ加入を認めてもらい地域の一人として協力したいと、模索している。	敷地内の整った環境を地域のために活用したり、運営推進会議に出席する地域の関係者の協力を得るなど多角的に努力し、地域との相互関係を築けるよう、あきらめず働きかけることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の参加者やボランティアの方またご家族からの抱えている不安などを解消すべく助言などを行っている。11月には認知症の勉強会を企画しており、地域の方にも参加してもらう方向である。	運営推進会議の参加者やボランティアの方またご家族からの抱えている不安などを解消すべく助言などを行っている。11月には認知症の勉強会を企画しており、地域の方にも参加してもらう方向である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では熱心な意見が毎回出ており、厳しいお言葉も頂くが、できる限り意見や要望については直ぐに実践をしてサービス向上に活かしている。	運営推進会議では熱心な意見が毎回出ており、厳しいお言葉も頂くが、できる限り意見や要望については直ぐに実践をしてサービス向上に活かしている。	同敷地内の小規模多機能型居宅介護事業所と同日で時間をずらして別開催している。運営推進会議メンバーからは、職員の定着率に関して、職員の名前を掲示して欲しい旨や、避難訓練方法など意見は活発に出されている。意見はできる限り反映しサービスの向上につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営会議の議事録の提出や各種報告書の提出時に取り組み状況などを伝えており、定期的に足を運ぶことで関係強化に向けて取り組んでいる。	運営会議の議事録の提出や各種報告書の提出時に取り組み状況などを伝えており、定期的に足を運ぶことで関係強化に向けて取り組んでいる。	市担当窓口に管理者、ケアマネジャーが出向いたり書類提出時に事業所の状況を伝えている。困難事例や事故の際は電話にて相談するなど様々な機会を通じて課題解決の対応と一緒に取り組めるよう担当職員との関係づくりに努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日頃の朝礼やミーティング時に職員に対して身体拘束に対しての内容などを話している。また次月には身体拘束をテーマに勉強会を計画している。身体拘束をしないケアが何であるか、どうすればいいか職員も前向きである。	日頃の朝礼やミーティング時に職員に対して身体拘束に対しての内容などを話している。また次月には身体拘束をテーマに勉強会を計画している。身体拘束をしないケアが何であるか、どうすればいいか職員も前向きである。	全職員は身体拘束・虐待について正しく理解しており、毎月の勉強会でも学ぶ機会を持っている。スピーチロックについても言葉の言い換えや理由を伝える方法など意識づけ、身に付くよう実践的に研修を重ねている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者の虐待についてはニュースでも多く取り扱われている。自分自身がどうなのかを常に問い掛けるように職員には伝えている。高齢者の尊厳の保持を常に心にとめ対応できるよう注意をしている。	高齢者の虐待についてはニュースでも多く取り扱われている。自分自身がどうなのかを常に問い掛けるように職員には伝えている。高齢者の尊厳の保持を常に心にとめ対応できるよう注意をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援制度や成年後見制度の必要性のある方が今現在はいないが、今後に関しては権利擁護に関する勉強会も検討する。	日常生活自立支援制度や成年後見制度の必要性のある方が今現在はいないが、今後に関しては権利擁護に関する勉強会も検討する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約等に関しては最初の契約時に不安の無いように説明を行っている。改定時にも素早い対応を心掛け十分に理解して頂けるように説明している。	契約の締結、解約等に関しては最初の契約時に不安の無いように説明を行っている。改定時にも素早い対応を心掛け十分に理解して頂けるように説明している。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1F)	ユニット名(2F)	実践状況	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族に対し満足度調査を年に1回実施しており意見や要望を受け、運営に反映させている。	ご家族に対し満足度調査を年に3回実施しており意見や要望を受け、運営に反映させている。	年1回、家族アンケートを行っている。「職員間の連携が不十分だ」との指摘に常勤職員の増員、連絡ノートを活用するなど迅速に意見を反映した。家族の面会時には必ず声をかけ要望・意見を言ってもらえる雰囲気づくりに留意している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月2回のスタッフミーティングを開催し、職員から出る意見を吸い上げたり、個人面談でスタッフの思いをくみ取る機会を設けている。課題を明確にできる機会の確保ができています。	毎月2回のスタッフミーティングを開催し、職員から出る意見を吸い上げたり、個人面談でスタッフの思いをくみ取る機会を設けている。課題を明確にできる機会の確保ができています。	月2回のミーティングは各ユニットごとに開き、職員は事前に意見や要望を考えて出席している。個人面接は年2回あり法人管理職も同席する。日々のケア方法など職員から出される提案は皆で話し合い、サービスに反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の面談を行うことで、今問題となっている課題が抽出できそれを吸い上げ、代表者に伝える事で環境の整備を図れるような仕組みがある。	個々の面談を行うことで、今問題となっている課題が抽出できそれを吸い上げ、代表者に伝える事で環境の整備を図れるような仕組みがある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	初任者研修、現任者研修、中途採用研修等の社内の研修、認知症実践者研修等の社外の研修への参加、また毎月テーマを決め勉強会を行っている。	初任者研修、現任者研修、中途採用研修等の社内の研修、認知症実践者研修等の社外の研修への参加、また毎月テーマを決め勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内にて別サービス事業所との交流、研修を行っている。またグループホーム協会主催で他グループホームの見学も行った。	社内にて別サービス事業所との交流、研修を行っている。またグループホーム協会主催で他グループホームの見学も行った。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人、ご家族、関係者からの情報の聞き取りを行い、安心できる関係づくりに努めている。	ご本人、ご家族、関係者からの情報の聞き取りを行い、安心できる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人、ご家族、関係者からの情報の聞き取りを行い、安心できる関係づくりに努めている。	ご本人、ご家族、関係者からの情報の聞き取りを行い、安心できる関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今必要としているサービスが何であるかを、ご本人、ご家族と検討しデイサービス、小規模多機能等も紹介しながら他サービスを含めた対応を行っている。	今必要としているサービスが何であるかを、ご本人、ご家族と検討しデイサービス、小規模多機能等も紹介しながら他サービスを含めた対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者からも職員が馴染みの顔として、信頼関係も出てきており、こだわり等も表に出してその人らしく生活できてきている。	ご利用者からも職員が馴染みの顔として、信頼関係も出てきており、こだわり等も表に出してその人らしく生活できてきている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1F)	ユニット名(2F)	実践状況	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者のご家族との概念ではなく、一緒にご利用者を支えていくという意味では、行事でも職員と一緒に手伝って頂くこともあり、されるだけでなくして頂く事でご家族も楽しみを抱いている。	ご利用者のご家族との概念ではなく、一緒にご利用者を支えていくという意味では、行事でも職員と一緒に手伝って頂くこともあり、されるだけでなくして頂く事でご家族も楽しみを抱いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	全てではないがご家族以外にもご本人の近所の方が何人も面会に来られるなど門戸を広くすることで訪問しやすい環境が作られている。	全てではないがご家族以外にもご本人の近所の方が何人も面会に来られるなど門戸を広くすることで訪問しやすい環境が作られている。	入居時に、これまでの生活背景を把握し、これを基に毎日の暮らしの中から得た情報を書き加え、馴染みの人や場所との関係継続に努めている。実家を訪ねたり、自宅の近所に行ったりなど本人の思いを受け止め支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係把握はできており、職員が橋渡しをする事で、孤立したりストレスを抱えないように支援している。	ご利用者同士の関係把握はできており、職員が橋渡しをする事で、孤立したりストレスを抱えないように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後の関係に関しては関係性を大切にできていないのが現状である。	サービス終了後の関係に関しては関係性を大切にできていないのが現状である。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の生活環境については、職員が一緒に生活していく中で思いを感じていかなければならないことと、ご家族も交えながらアセスメントを繰り返している。	ご本人の生活環境については、職員が一緒に生活していく中で思いを感じていかなければならないことと、ご家族も交えながらアセスメントを繰り返している。	職員は、入居時に行うアセスメントを基本に日々の暮らしの中で本人の思いを察したり、思いを受け止めようと努めている。利用者同士の会話や何気ない日常の言動も見逃さず、その人にとっての最良の方法、ニーズを検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを行う際に、ご家族や関係者に聴き取りを行っている。また、今のご本人のアセスメントを重視している。	アセスメントを行う際に、ご家族や関係者に聴き取りを行っている。また、今のご本人のアセスメントを重視している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントを行う際に、ご家族や関係者に聴き取りを行っている。また、今のご本人のアセスメントを重視している。	アセスメントを行う際に、ご家族や関係者に聴き取りを行っている。また、今のご本人のアセスメントを重視している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に担当者会議を開催し、現状の状態確認、今後の方針を決め介護計画に活かしている。必要時にはカンファレンスも開催して介護計画を作成している。	定期的に担当者会議を開催し、現状の状態確認、今後の方針を決め介護計画に活かしている。必要時にはカンファレンスも開催して介護計画を作成している。	長期目標は1年、短期目標は6か月としてケアプランを立てる。サービス内容のモニタリングは日常的に行っておりミーティング時やサービス実行経過記録を使い職員の意見を反映している。訪問診療医の意見、家族の意向も汲み取った介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケア記録の作成、ミーティング時のカンファレンスの実施、職員間での気付きは朝礼などで話し合い、連絡ノートに落とし込み情報共有している。これらを鑑み計画書に反映させている。	毎日のケア記録の作成、ミーティング時のカンファレンスの実施、職員間での気付きは朝礼などで話し合い、連絡ノートに落とし込み情報共有している。これらを鑑み計画書に反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1F)	ユニット名(2F)	実践状況	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今現在のご利用者の状態把握を行うことで今必要なニーズが何であるかを確認して対応している。	今現在のご利用者の状態把握を行うことで今必要なニーズが何であるかを確認して対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ふれあい介護サポーターの活用を行い、多様な活動を提供することで、日々の生活を楽しく頂けている。	ふれあい介護サポーターの活用を行い、多様な活動を提供することで、日々の生活を楽しく頂けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご入居時にご本人、ご家族の希望を伺ったうえで既存のかかりつけ医を継続するか当事業所と提携している甲州リハビリテーション病院の医師をかかりつけ医とするか判断を委ねている。	ご入居時にご本人、ご家族の希望を伺ったうえで既存のかかりつけ医を継続するか当事業所と提携している甲州リハビリテーション病院の医師をかかりつけ医とするか判断を委ねている。	本人・家族の希望通りのかかりつけ医となっている。現在は利用者全てが、事業所内での訪問診療を月2回受けている。専門診療科への受診は家族が対応し、受診の情報は相互に共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現場でのアセスメントを基に、介護職からの情報や気づきで得た内容を訪問看護師に相談、適切な指示を仰ぐことで受診や看護を受けられる。	現場でのアセスメントを基に、介護職からの情報や気づきで得た内容を訪問看護師に相談、適切な指示を仰ぐことで受診や看護を受けられる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療関係者とご家族の間に入り詳細な情報を伝えている。甲州リハビリ病院で医師がタイムリーに紹介状を提供してくれることで病院関係者との情報交換も密にできている。退院時のカンファもご家族と参加して甲州リハ医師との連携もできている。	入院時には医療関係者とご家族の間に入り詳細な情報を伝えている。甲州リハビリ病院で医師がタイムリーに紹介状を提供してくれることで病院関係者との情報交換も密にできている。退院時のカンファもご家族と参加して甲州リハ医師との連携もできている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の指針をご家族に説明し同意を頂いている。また、緊急時、看取り時の方向性をご家族にも検討して頂く場を設けて、双方のすり合わせができるようにしている。	重度化の指針をご家族に説明し同意を頂いている。また、緊急時、看取り時の方向性をご家族にも検討して頂く場を設けて、双方のすり合わせができるようにしている。	入居時に終末期、緊急時についての対応を家族と話し合い、同意書を作成して対応や方針の共有化を図っている。状況の変化のたびに話し合いを重ねており医療連携の体制も整っている。看取りの支援を行った経験から、他の利用者への影響に配慮しながら、一人ひとりの思いを受け止められる対応を考えたいとの思いを持っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当てや初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアル、連絡網等を見える所に置き、全スタッフが緊急時の初期対応ができるように定期的に勉強会を行うようにしている。	緊急時のマニュアル、連絡網等を見える所に置き、全スタッフが緊急時の初期対応ができるように定期的に勉強会を行うようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震対応マニュアル、水害対策マニュアルなどを作成しており、研修も行っている。防災訓練は年2回実施。夜間想定避難訓練は2カ月おきに行っている。	地震対応マニュアル、水害対策マニュアルなどを作成しており、研修も行っている。防災訓練は年2回実施。夜間想定避難訓練は2カ月おきに行っている。	年2回、同一敷地内にある事業所と合同で避難訓練、災害訓練を実施している。消防署の協力のもと初期消火、通報訓練、避難訓練を行っている。マニュアルも整備し、他に2か月に1回、夜間を想定した訓練を行い夜勤職員全てが確実な避難誘導ができるよう訓練している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	初任者研修時にテキストを用意して、倫理マナー研修をしている。また上長の講師で年に1回は倫理・マナー研修を開催して全員が参加している。	初任者研修時にテキストを用意して、倫理マナー研修をしている。また上長の講師で年に1回は倫理・マナー研修を開催して全員が参加している。	法人全体が‘人格の尊重’‘尊厳’‘プライバシー確保’など法遵守の姿勢を持っており、初任者研修時や年1回の倫理・マナー研修を行っている。トイレ誘導はさりげなく他者に気づかれないよう、言葉遣いは場面、関係性を考えて使い分けるなど、きめ細かな配慮をしている。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1F)	ユニット名(2F)	実践状況	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけ日常生活の中でご本人の思いや希望が表出できる会話ができるように指導している。ご利用者の表情や言動などを常に見る、聞く事で支援していくようにしている。	できるだけ日常生活の中でご本人の思いや希望が表出できる会話ができるように指導している。ご利用者の表情や言動などを常に見る、聞く事で支援していくようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを職員も把握してきているのでその方のリズムを崩さないように支援できるようになってきている。職員側の心のゆとりがないとペースも崩してしまいがちなので意識して支援するようになっている。	一人一人のペースを職員も把握してきているのでその方のリズムを崩さないように支援できるようになってきている。職員側の心のゆとりがないとペースも崩してしまいがちなので意識して支援するようになっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の今までの生活習慣を知った上でその人らしい身だしなみをして頂いている。できる方は職員が意見しないようしてその方に任せている。	ご本人の今までの生活習慣を知った上でその人らしい身だしなみをして頂いている。できる方は職員が意見しないようしてその方に任せている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	手作りランチなどの曜日を設定して、ご利用者に要望を聞きながら一緒にランチを作ってもらう。共同作業で全員が何かしらお手伝いできる様に工夫している。	手作りランチなどの曜日を設定して、ご利用者に要望を聞きながら一緒にランチを作ってもらう。共同作業で全員が何かしらお手伝いできる様に工夫している。	各ユニットではご飯を炊くのみで、副菜等全てキッチン方式の物が届けられる。食事が楽しみなものとなるよう週1回昼食を手作りしたり外食をするなど工夫をしている。片づけや食器拭きなどできることは利用者も行い、食事介助の必要な利用者がいるが隣に座り仲良く同志ごく自然に介助している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居時、入居後のご本人の状態をアセスメントした中で食材などを検討して提供している。水分確保が必要な方は水分量の記録をしながら水分を促している。管理栄養士によるバランスのとれた食事を提供する事で栄養の確保はできている。	入居時、入居後のご本人の状態をアセスメントした中で食材などを検討して提供している。水分確保が必要な方は水分量の記録をしながら水分を促している。管理栄養士によるバランスのとれた食事を提供する事で栄養の確保はできている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔内のケアを行っている。できるところはご本人にして頂いている。週1回、訪問歯科も入り治療やケアが必要な方は施行している。	毎食後口腔内のケアを行っている。できるところはご本人にして頂いている。週1回、訪問歯科も入り治療やケアが必要な方は施行している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記録する事で排尿、排便の状態を知り、失敗がないように努めている。それぞれの能力に応じた排泄支援を行っている限りトイレで排泄できる様に支援している。18名のうち1名だけオムツを使用されている。	排泄チェック表に記録する事で排尿、排便の状態を知り、失敗がないように努めている。それぞれの能力に応じた排泄支援を行っている限りトイレで排泄できる様に支援している。18名のうち1名だけオムツを使用されている。	一人一人の排泄パターン・習慣を把握し、個別に応じた排泄支援を行っている。職員は一人ひとりの様子から敏感に察知し自尊心の傷つかないよう配慮してトイレでの排泄を支援している。オムツ、リハビリパンツ、パット類についても、検討し昼夜の使い方を見直したり、トイレでの排泄支援を職員二人で対応するなど様々に工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を活用して排便の状態を職員は意識している。できるだけ水分補給を促し、運動を試みている。便秘が継続しそうな方には訪問看護師と連絡を取り内服薬などを用いての対応も行っている。	排便チェック表を活用して排便の状態を職員は意識している。できるだけ水分補給を促し、運動を試みている。便秘が継続しそうな方には訪問看護師と連絡を取り内服薬などを用いての対応も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本は曜日を決めて入浴されているが、タイミングの合わない方も増えてきているので一日を通してタイミングのあった時にお入れする事も増えてきている。	基本は曜日を決めて入浴されているが、タイミングの合わない方も増えてきているので一日を通してタイミングのあった時にお入れする事も増えてきている。	月・火・木・金曜日を入浴日として入浴準備するが水・土・日曜日でも予備日として入浴は可能となっており、利用者の入浴の希望に答える状況を作っている。入浴を嫌がる利用者には声をかけたり、タイミングを変えて促したり、入浴が楽しめるよう入浴剤なども活用し浴室の環境も整えている。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1F)	ユニット名(2F)	実践状況	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の状況に応じて休息を促している。居室の環境や室温などに注意して安眠できる様に支援している。個々の意見を取り入れ安心して眠れるように支援している。	その時の状況に応じて休息を促している。居室の環境や室温などに注意して安眠できる様に支援している。個々の意見を取り入れ安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋のファイルを作り職員全員が薬についての内容を理解できる様にしている。服薬内容が変更した時は朝礼時や連絡ノートで周知できるようにしている。	処方箋のファイルを作り職員全員が薬についての内容を理解できる様にしている。服薬内容が変更した時は朝礼時や連絡ノートで周知できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴をそのまま生かすことは難しく、できなくなったことで意欲低下が見られる方もあります。個々の能力を見出し、負担なく楽しめる役割等を見つけて支援している。	生活歴をそのまま生かすことは難しく、できなくなったことで意欲低下が見られる方もあります。個々の能力を見出し、負担なく楽しめる役割等を見つけて支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	一人一人の希望に合わせて買い物や散歩などに行く支援をしている。	一人一人の希望に合わせて買い物や散歩などに行く支援をしている。	天候の良い日は周囲を散歩したり、その日の希望に沿って買い物や外出している。月1回の特別外出では季節行事や外食などを組み合わせて土、日に開催するよう工夫して、家族の参加、協力を得ている。法人内の事業所から車両を借りなどの協力が得られるので利用者全員での外出が可能になっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金としてGHで現金を預かっており、希望があれば一緒に買い物に行っている。お金の所持に関しては入居時に断っているが、ご本人の思いが強い方は財布に入れて所持されている方も何人かおられる。	預り金としてGHで現金を預かっており、希望があれば一緒に買い物に行っている。お金の所持に関しては入居時に断っているが、ご本人の思いが強い方は財布に入れて所持されている方も何人かおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望で電話をかけられるようにしている。携帯電話を持参されている方もいる。電話や手紙のやり取りに規制はしていません。	ご本人の希望で電話をかけられるようにしている。携帯電話を持参されている方もいる。電話や手紙のやり取りに規制はしていません。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間に関しては居心地の良い空間になる様に適宜レイアウトを変更している。急激な変更はご利用者の気持ちを乱してしまうこともあるので気をつけながら空間づくりをしている。	共有空間に関しては居心地の良い空間になる様に適宜レイアウトを変更している。急激な変更はご利用者の気持ちを乱してしまうこともあるので気をつけながら空間づくりをしている。	利用者自身が自分の居場所を作っているので利用者同士のトラブルにならないよう共用空間、特にリビングや食堂のレイアウトには配慮している。共有部分の壁には書道の作品、外出時の写真などが程よく掲示されている。広いリビングは音楽療法、紙芝居、読み聞かせ、書道など活発なレクリエーション活動に活用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ほぼご自分の居場所を確保している方が多い。ご利用者同士の関係もあり、自分で居場所が作れない方は職員が支援しながら居場所の工夫をしている。	ほぼご自分の居場所を確保している方が多い。ご利用者同士の関係もあり、自分で居場所が作れない方は職員が支援しながら居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れたものを持参頂くように伝えている。それぞれご本人、ご家族が相談されて持ち込まれております。	入居時に使い慣れたものを持参頂くように伝えている。それぞれご本人、ご家族が相談されて持ち込まれております。	居室にはベッド、チェスト、クーラー、加湿器、カーテン、クローゼットが備え付けてある。利用者が居心地よいと感じる居室であるよう個別に応じた工夫をしている。物品の多い部屋、少ない部屋もあるが、その人にとって安心感が持てる居室を職員、家族、本人とで話し合い必要な物を整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有スペースを広く取っており、それぞれの居場所を自分で選択して過ごしていただいている。バリアフリーにしていることで、転倒などのリスクを最小限にし、自立した生活を送られている。	共有スペースを広く取っており、それぞれの居場所を自分で選択して過ごしていただいている。バリアフリーにしていることで、転倒などのリスクを最小限にし、自立した生活を送られている。		